



議会だより

発行：八郎潟町議会 編集：議会広報編集委員会

〒018-1692 秋田県南秋田郡八郎潟町字大道80 TEL 018-875-5810

3月定例会

中学校卒業式



小学校卒業式

目次

- 2～3 …… 3月定例会／議会のうごき
- 4 …… 提出議案結果報告
- 5 …… 議案第14号討論
- 6～12 …… 一般質問
- 13 …… 各常任委員会
- 14～15 …… 予算等特別委員会
- 16 …… インタビュー



令和8年度 3月定例会

人口減少・少子高齢化に立ち向かうための最上位の10か年計画「第7次八郎潟町総合計画」の初年度となる重要な3月定例会が開催されました。

3月定例会のあらまし

3月定例会は3月3日から13日までの11日間の会期で開催されました。

第1日目は、町長職務代理者（小野副町長）による行政報告とそれに対する質問及び施政方針、教育長の施政方針の後、議案の上程及び提案理由の説明と質疑を行いました。続いて専決処分1件、令和7年度各会計補正予算案6議案、条例改正案5議案、計画策定・変更2議案、当初予算6議案、人事案件14件を一括上程、陳情1件を付託しました。

次いで、各常任委員会が開かれ、日程などについて

協議しました。

2日目は、6人の議員が一般質問を行い、救急・消防関係や除雪などについて質問しました。

3日目以降は、八中、八小の卒業式対応で休会がありましたが、各常任委員会と全議員が参加する予算等特別委員会で予算・第7次総合計画等の審議を行いました。

最終日は、本会議において、令和8年度各会計予算、条例は原案通り可決、陳情は否決となりました。

なお、今定例会は、延べ11人の方々から傍聴していただきました。

令和8年度 当初予算の概要

一般会計の予算規模：38億9,261万4千円（前年対比5億9,917万4千円増）

歳入

(単位：千円)

	令和8年度	令和7年度	増減
歳入	3,892,614	3,293,440	599,174
自主財源	1,380,454	787,859	592,595
町税	483,665	441,014	42,651
繰入金	782,016	238,314	543,702
その他	114,773	108,531	6,242
依存財源	2,512,160	2,505,581	6,579
国庫支出金	288,020	361,874	△73,854
町債	195,800	117,500	78,300
その他	2,028,340	2,026,207	2,133

歳出

(単位：千円)

	令和8年度	令和7年度	増減
歳出	3,892,614	3,293,440	599,174
総務費	481,424	574,287	△92,863
農林水産費	277,399	137,777	139,622
土木費	311,091	360,350	△49,259
消防費	234,322	234,396	△74
教育費	349,062	330,978	18,084
公債費	897,551	320,367	577,184
その他	1,341,765	1,335,285	6,480

【増減のポイント】

総務費：電子計算費：△108,243千円（ガバメントクラウド 使用料 △36,034千円、秋田県町村電算システム共同事業組合負担金 △70,048千円他）

農林水産費：農村環境改善センター（改修他）+132,845千円

土木費：道路維持舗装費 △47,193千円

（町道整備工事 △34,848千円他）

公債費：元金+575,169千円（繰上償還元金+598,570千円他）

【増減のポイント】

依存財源率が76.1%から64.5%に低下

町税：町民税 +34,168千円（農家所得分 +29,322千円他）
固定資産税 +6,919千円

繰入金：財政調整基金 +539,800千円
がんばれふるさと基金 +10,972千円
森林環境譲与税基金 △7,070千円

●基金の状況

(単位：千円)

	令和7年度				令和8年度				残高増減
	当初(前年度末)	取崩(見込)	積立(見込)	残高(見込)	取崩(見込)	積立(見込)	残高(見込)		
基金合計	2,742,801	285,617	364,904	2,822,088	789,014	6,411	2,039,485	△782,603	
財政調整基金	2,328,133		309,697	2,637,830	746,800	3,661	1,894,691	△743,139	
減債基金	352,023	250,155	457	102,325		104	102,429	104	
公共施設解体基金	10,014		23	10,037		11	10,048	11	
その他	52,631	35,462	54,727	71,896	42,214	2,635	32,317	△39,579	

●地方債の状況

(単位：千円)

	6年度末現在高	令和7年度見込額				令和8年度見込額			
		新規借入予定額	償還元金	償還利子	年度末現在高	新規借入予定額	償還元金	償還利子	年度末現在高
合計	2,607,253	185,900	546,641	5,927	2,246,512	195,800	888,090	8,474	1,554,222

特別会計等予算

令和8年度国民健康保険特別会計当初予算
679,255千円 (前年度対比 △ 9,701千円)
令和8年度後期高齢者医療特別会計当初予算
129,968千円 (前年度対比 +32,337千円)
令和8年度介護保険特別会計当初予算
1,013,300千円 (前年度対比 +33,088千円)

令和8年度水道事業会計当初予算
収益的収入: 135,209千円 (前年度対比 △ 4,711千円)
資本的収入: 53,812千円 (前年度対比 +15,648千円)
令和8年度公共下水道会計当初予算
収益的収入: 205,455千円 (前年度対比 △ 4,946千円)
資本的収入: 105,884千円 (前年度対比 △ 5,711千円)

令和7年度 補正予算の概要

一般会計の補正予算: 1億5,889万7千円の追加で総額40億1,289万2千円としました

◆歳入予算の主なものは

- ・地方交付税 254,027千円の追加で 総額 1,889,027千円
・繰入金 206,762千円の減額で 総額 286,795千円
・繰越金 125,401千円の追加で 総額 221,011千円
・町債 19,800千円の減額で 総額 114,800千円

◆歳出予算の主なものは

- ・総務費 255,171千円の追加で 総額 907,195千円 財政調整基金積立金など
・土木費 24,786千円の減額で 総額 342,318千円 備品購入費など
・教育費 22,406千円の減額で 総額 323,300千円 会計年度任用職員人件費など
・公債費 16,967千円の減額で 総額 553,555千円 繰上償還金



各特別会計など

- 令和7年度国民健康保険特別会計 15,533千円の減額で 総額 677,446千円
●令和7年度後期高齢者医療特別会計 1,721千円の追加で 総額 109,619千円
●令和7年度介護保険特別会計 13,164千円の追加で 総額 1,044,993千円
●令和7年度水道事業会計 収益的収入 1,963千円の追加で 総額 141,883千円
資本的収入 1,608千円の追加で 総額 39,772千円
●令和7年度公共下水道事業会計 収益的収入 10,582千円の減額で 総額 201,708千円
資本的収入 2,099千円の減額で 総額 109,496千円

▶議長交際費の支出状況 (1月~3月)

◎議長が交際費に要した経費の概要をお知らせします。

Table with 4 columns: 分類, 件数, 金額(円), 内訳. Rows include 'その他' and '計'.

議会のうごき

1月

- 4日 消防出初式 (議長・議員)
8日 男鹿潟上南秋消防組合臨時議会 (松田真寿美・野原静雄)
9日 湖東3町商工会新春賀詞交歓会 (議長・議員)
19日 例月出納検査 (監査委員)
27日・28日 南秋田郡町村議会議長会視察研修 (議長)

2月

- 7日 合同厄祓い・還暦祝 (議長)
12日 秋田県町村電算システム共同事業組合議会定例会 (議長)
秋田県町村議会議長会理事会 (議長)
14日 スポーツ賞授与式・スポーツ講演会 (議長・議員)
18日 例月出納検査 (監査委員)
19日 男鹿潟上南秋消防組合臨時議会 (松田真寿美・野原静雄)

- 24日 議会運営委員会 議会広報編集委員会
25日 議会全員協議会

3月

- 3日 議会定例会 (13日まで)
6日 八郎潟中学校卒業式 (議長・議員)
5日 八郎潟町婦人会総会 (議長)
13日 八郎潟小学校卒業式 (議長・議員)
18日 例月出納検査 (監査委員)
24日 八郎湖周辺清掃事務組合議会定例会 (村井智・小野千春)
24日 八郎潟町・井川町衛生処理施設組合定例会 (京極幸村・伊藤章・小柳鉄秀)
25日 議会広報編集委員会
26日 八郎潟町・井川町衛生処理施設組合監査 (小柳鉄秀)
27日 男鹿潟上南秋消防組合第1回定例会 (松田真寿美・野原静雄)
30日 湖東地区行政一部事務組合議会 (松田真寿美・野原静雄・小林響騎)

令和8年 八郎潟町議会 3月定例会提出議案結果報告

議案番号	議 件 名	議決の結果	付託委員会
承認第1号	令和7年度八郎潟町一般会計補正予算(第7号)専決処分の承認を求めることについて	全員賛成可決	総務産業
議案第1号	令和7年度八郎潟町一般会計補正予算(第8号)について	全員賛成可決	各委員会
議案第2号	令和7年度八郎潟町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)について	全員賛成可決	教育民生
議案第3号	令和7年度八郎潟町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)について	全員賛成可決	教育民生
議案第4号	令和7年度八郎潟町介護保険特別会計補正予算(第3号)について	全員賛成可決	教育民生
議案第5号	令和7年度八郎潟町水道事業会計補正予算(第3号)について	全員賛成可決	総務産業
議案第6号	令和7年度八郎潟町公共下水道事業会計補正予算(第3号)について	全員賛成可決	総務産業
議案第7号	職員等の旅費に関する条例等の一部を改正する条例について	全員賛成可決	総務産業
議案第8号	八郎潟町防災行政無線通信施設設置条例の一部を改正する条例について	全員賛成可決	教育民生
議案第9号	八郎潟町防災会議条例の一部を改正する条例について	全員賛成可決	教育民生
議案第10号	八郎潟町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例について	全員賛成可決	教育民生
議案第11号	八郎潟町道路占用料徴収条例の一部を改正する条例について	全員賛成可決	総務産業
議案第12号	第7次八郎潟町総合計画の策定について	賛成多数可決	予算等特別
議案第13号	八郎潟町過疎地域持続的発展計画の変更について	全員賛成可決	予算等特別
議案第14号	令和8年度八郎潟町一般会計予算について	賛成多数可決	予算等特別
議案第15号	令和8年度八郎潟町国民健康保険特別会計予算について	全員賛成可決	予算等特別
議案第16号	令和8年度八郎潟町後期高齢者医療特別会計予算について	全員賛成可決	予算等特別
議案第17号	令和8年度八郎潟町介護保険特別会計予算について	全員賛成可決	予算等特別
議案第18号	令和8年度八郎潟町水道事業会計予算について	全員賛成可決	予算等特別
議案第19号	令和8年度八郎潟町公共下水道事業会計予算について	全員賛成可決	予算等特別
議案第20号	八郎潟町農業委員会委員の選任につき同意を求めることについて	賛成多数可決	
議案第21号 ~25号		全員賛成可決	
議案第26号		賛成多数可決	
議案第27号 ~31号		全員賛成可決	
諮問第1号 ~第2号	八郎潟町人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	全員賛成可決	
	議員派遣について(町村議会議長・副議長研修=議長・副議長)	全員賛成可決	

陳 情

受理年月日	件 名	本会議結果	付託委員会	審査結果
2026年 1月15日	「最低賃金」の改正と中小企業・小規模事業所支援の拡充を国に求める意見書の採択を求める陳情書	全員一致 不採択	総務産業	賛成少数 不採択

賛否の分かれた採決結果

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	議決 (審査) 結果
議員名	加藤千代美	京極幸村	村井智	小野千春	伊藤章	松田真寿美	野原静雄	小林響騎	畠山一充	小柳鉄秀	小柳聡	柳田裕平	

議案第12号

委員会	委	—	○	○	○	○	○	●	○	○	○	—	可決
本会議	●	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	議	可決

議案第14号

委員会	委	—	●	○	○	○	○	●	○	○	○	—	可決
本会議	●	●	●	●	○	○	○	●	○	○	○	議	可決

議案第20号

本会議	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	議	可決
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

議案第26号

本会議	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	議	可決
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

陳 情

委員会	—	委	●	●	—	—	●	●	—	—	—	○	不採択
本会議	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	議	不採択

※議長又は委員長は採決に加わりません。 ○：賛成 ●：反対 議：議長 委：委員長

議案第14号

賛成
反対
討論

反対討論 加藤千代美議員

令和8年一般会計予算について反対討論を行います。

令和8年の一般会計当初予算は効率的で町民の誰もが豊かな生活を営めるような予算であるべきだと考える。

しかし、令和8年一般会計予算において、まちづくり活動センター、ハチラボ補助金が昨年より増額したことは、過去において指摘された事項を守ることなく、反省もなく、内容も変わることなく予算措置した事は豊かな生活を営める予算とは言えない。

また、町の政策は農業予算においては農地の集積、水田利活用、新しいものでは農業機械の導入等である。だが、ひとつ例にとつて考えて見ると農地の集積を図ることは、町の基幹産業である農家人口が減少することになる。

これらのことを考えて予算を組み立てたのか、疑問が残る今、農業は6次産業化複合経営、兼業化、水田利活用においては、多品目の育成等によ

り所得の向上と安定を図ろうとしている。

この様な状況下で作られた、第7次基本計画と8年度の当初予算だと思ふ。しかし、その内容が、第7次基本計画が実現されるようになっていない。

よつて、私は令和8年の当初予算に反対すると共に議員間の更なる討論が行われることを期待して反対討論と致します。

賛成討論 小柳 鉄秀議員

議案第14号 令和8年度八郎潟町一般会計予算について、私は賛成の立場で討論させていただきます。

一般会計予算は、38億9,261万4千円で、前年度比18.2%の増であります。それぞれ所管課において数多くの事業、70周年記念事業など、様々な施策が取り組まれ、住民が安心・安全に生活できるよう配慮されているものと思ふ。

農村環境改善センター改修工事においては、早急に事業を進めなければなりません。各団体事業へも影響を

及ぼすことにもなりますので、町民に対して混乱を招くことなく行政運営を進めることが重要と考えます。

執行に当たっては町民の要望、期待に十分に応えられるよう適正に執行されることを望みます。町づくり活動センター管理運営委託料においては、課題はあるものの、今後について見直しをするなど、しかるべき対処くださるよう、町当局へ要望します。

八郎潟町の未来に向けて、さらなる躍進を遂げられるよう期待し、賛成討論といたします。

反対討論 小野 千春議員

財政調整基金の取崩し額の根拠について他の考えに立ち反対。財政調整基金(町の預金)は地方自治法241条により安全・確実・効率に運用が必要。今回、町の庁舎建替時30年返済、通常なら返済2,340万プラス25万利息を今回金利上昇により残債一括返済として5億9,857万償還元金8億8,809万の取崩しが予算計上されている。

予算委員会の質問において今回の取崩し返済は利率上昇対応と近々に財政調整基金を取崩す億の事業予定が無いという解

答でした。確かに支払利息は返済すれば上昇しても負担にならない。しかし一方当町には金融資産約26億(令和7年見込)があるためバランスシートで考えた場合、金利上昇に合わせた運用をすれば、支払利息の影響軽減が出来る。町長の体調も考えると財政調整基金を使つて政策的経費計上(消極財政)する場合も、当面運用し金利上昇に伴う税外収入を増やすことを念頭に元本を取崩しを再検討いただきたい。

令和8年度は本町第7次総合計画がスタートし、その初年度的一般会計予算の当初予算であるため、町民に直結した住民サービスを実現するために、どのような分野に重点を置いて事業を進めていくかを表すものです。

さて、人口減少、少高齢化が進行している本町において、令和8年度の予算を見ますと厳しい財政状況の中、特に子育て支援、老人福祉及び教育環境への配慮や、公共施設の維持管理や安心・安全に直結する、必要性の高い事業を優先的に行うとする姿勢が見られます。

しかし、予算特別委員会「まちづくり活動センター」が設置して約9年目を迎えますが、その管理運営費について様々な意見等がありました。社会情勢が日々刻々と変化している中で、本町の商店街の多くは高齢化と後継者不足が深刻化しており廃業や空き店舗の増加が進行しています。

そのような状況を踏まれば「まちづくり活動センター」の在り方や管理運営の見直しも考えてきました。

一方で、指定管理者である「NPO法人はちらぼ」は、補助金で健康いまトレ、寄席及び再発見セミナーの開催などや、

特に商店街の高齢化により八郎潟町ポイントカード会の事務局を担っており、商店街全体の活性化を図っていることも事実であります。

商店街にとつては必要不可欠の「まちづくり活動センター」ですので、その管理運営の在り方については、来年度の予算編成にあたり精査を加え見直しすることを強く要望して、令和8年度八郎潟町一般会計予算について賛成討論とさせていただきます。

本町農業事業予算の合計は744万3千円です。一方ハチラボへの予算は合計1千391万6千円。倍近くある。町の基幹産業であり税収増を担っている農業と比べると、その正当性はない。また町答弁によると、ハチラボを経由せず町直営とすれば150万円も安上がりになる。賛成討論で、今後の改善を期待する向きもあつたが、来年度は本年度より増加している。

なお、町民はハチラボハウス運営赤字分の3百万円を町が負担したことを忘れていない。この予算は将来に資するところは全くなく、反対する。

本町農業事業予算の合計は744万3千円です。一方ハチラボへの予算は合計1千391万6千円。倍近くある。町の基幹産業であり税収増を担っている農業と比べると、その正当性はない。また町答弁によると、ハチラボを経由せず町直営とすれば150万円も安上がりになる。賛成討論で、今後の改善を期待する向きもあつたが、来年度は本年度より増加している。

反対討論 村井 智議員

本町農業事業予算の合計は744万3千円です。一方ハチラボへの予算は合計1千391万6千円。倍近くある。町の基幹産業であり税収増を担っている農業と比べると、その正当性はない。また町答弁によると、ハチラボを経由せず町直営とすれば150万円も安上がりになる。賛成討論で、今後の改善を期待する向きもあつたが、来年度は本年度より増加している。



3月定例会 一般質問

6議員が町政に対し質問

3月4日の本会議において一般質問が行われ、6議員が質問を行いました。以下、質問・答弁の内容を要約してお伝えします。

◆ 質問者

小林 響騎 議員 (一問一答)

- 1、少子高齢化対策について
- 2、地域コミュニティの負担軽減施策について

松田真寿美 議員 (一問一答)

- 1、「第7次八郎潟町総合計画」のゆくえ
- 2、「クマ対策」の進捗状況

野原 静雄 議員 (一問一答)

- 1、財政運用について
- 2、「第7次八郎潟町総合計画」について

畠山 一充 議員 (一括質問一括答弁)

- 1、スマート農業の推進に向けて
- 2、自転車による交通安全教育

村井 智 議員 (一問一答)

- 1、八郎潟土地改良区へのポンプ場委託管理について
- 2、消防機構の改正の折、今後の努力目標としてドクターカー等の推進など、町長答弁で示されていたが、現状についてお知らせ願いたい
- 3、地域医療における終末医療・長期療養型医療について
町内における高齢者独居率について

小野 千春 議員 (一問一答)

- 1、降雪時における安全安心確保のための取組について

一般質問及び答弁内容は、「質問者の責任」において掲載しております。
詳しい内容については、議会議事録（町のホームページ）をご覧ください。

議会改革特別委員会の報告

議会開会日に中間報告をし、3月5日に当局に対して以下の要望書を議長名で提出した。

- ①本会議及び予算・決算特別委員会においてアーカイブ化を進める
- ②事務局体制の充実を求める
- ③議案資料については可及的速やかな提出を求める

一般質問

少子高齢化の解決策について



こばやし ひびき
小林 響騎
議員

近年、日本全体で少子高齢化が急速に進行しており、本町においても、生産年齢人口の減少と高齢化率の上昇が続いている。しかし、八郎瀧町はその立地や特性を生かすことで、この流れに歯止めをかける可能性を十分に持っている町だと考えている。

問 『八郎瀧町のベッドタウン構想』を提案する。具体策としては、町外に通勤する子



育て世帯などを対象に、交通費の一部を補助する制度を設けることを想定している。八郎瀧町は、JRの駅を有し、高速道路のインターチェンジも近く、国道7号線が南北を貫くなど、交通の利便性という大きな強みを持っている。この強みを最大限に生かすことで、企業を町内に誘致しなくとも、若い世代の居住地として選ばれる町になる可能性があると考えられる。人口が増えれば、生活需要が拡大し、結果として商店街の活性化や地域経済の循環にもつながっていくのではないかと。

副町長 ベッドタウンとしての機能に特化して、人口増加を図ると

いう方向性も、街作りの1つの選択肢であると考えている。特に本町は、秋田市や潟上市、能代市への通勤圏内にある環境であることから、若年層や子育て世代の移住定住を促進することが可能。このためには、ベッドタウンとしての魅力を生かしながらも、地域内の雇用創出や産業振興、教育や福祉などの生活基盤の充実を図り、多様なライフスタイルに対応できる街づくりを目指す必要があると考えている。

【要望】 少子高齢化対策は、八郎瀧町の将来を左右する極めて重要な課題であると考えている。私自身、若い世代の一人として、この町で働き、暮らし、そして次の世代へとつないでいける町であってほしいという思いから、質問させていただいた。現状にとらわれないことなく、本腰を入れて課題解決に取り組んでいただくことを強く要望する。

地域コミュニティの負担を軽減する施策について

本町は少子高齢化の影響も大きく、地域コミュニティの維持が年々困難になってきている。特に、現役世代の参加が難しくなっていることは、大きな課題ではないか。私自身、現役の働き世代の一人である。地域での助け合いが大切であることは十分理解しているが、正直なところ、時間的にも精神的にも余裕がない。それが多くの現役世代の実情ではないか。そのようなことから、私の基本的考えとして、持続可能な地域社会形成には負担軽減が必須だと考えている。

今回はその一例として、「ごみの出し方」に絞って質問させていただく。



問 地域コミュニティの負担軽減という観点から、ごみ袋の記名方法や回収のあり方について、現状を前提とするのではなく、改善の余地がないか一度整理・検討していただけないか。たとえば、記名を廃止した場合に懸念される点があるのであれば、防犯カメラの設置など、地域に負担をかけない形での対策も考えられるのではないかと思う。

副町長 ゴミ収集所が全町で190箇所及んでおり、費用も高額となることからカメラの設置については検討しない。また記名の廃止についても、考えていない。

一般質問

「第7次八郎瀉町総合計画」

のゆくえ



まつだ ますみ
松田真寿美
議員

将来像は「人と地域に寄り添い希望と活力に満ちた共生創造のまち」

問 歴史的な祭りやイベントもあるが継続的な集客には至らない。年間を通しては浦城跡地がある。①登山道もリニユールされ観光の目玉とするような施策は。②「田んぼアート」や「高岳山」までの移動手段にカーシェアリング事業は。
副町長 ①具体的な企画は考えてない。高岳山の観光ルートは登山道の整備等で利用しやすい森林公園となった。広報誌・ホームページ・SNS等を活用しPRに努める。②観光に必要な場合は、公共交通や乗り合いタクシー等の活用を案内する。
◎イベント企画には、多くの協力者やPR等

も必要。何もやらずに前進はない。挑戦することが一番、皆で積極的なPRをしましょう。

問 「共生社会」の実現を目指し「サロン活動」の増加を目標、男性利用者増加に対する施策は。
副町長 平成24年度に男性限定の教室を開催。3年後「シニアパワークラブ」と自主化し25名の会員が登録し現在も週1回活動。今後は運動中心の介護予防教室を、認知症予防やeスポーツ・歯科検診・栄養管理等に見直し男女関係なく参加しやすい環境を整え展開する。

◎男性は自らの趣味や能力が発揮できるような活動が好まれる。今後のサロンは、年代男女問わず参加し社会的健康を目指してほしい。

問 1月4日出初式が行われ多くの消防団員が表彰、無火災を願ったが、12日夜叉袋地区で火災発生。消防団は消防署指揮隊から東側住宅飛火警戒予備注水の指示で消火活動。消防広域化で分署がない場合の現場到着時間に不安がある。消防団員の初期活動も重要視される。現在の招集方法は。

副町長 消防本部指令室から町の防災担当者、担当者から消防団長・副団長・各分団長のグループラインまたは電話で出勤要請。
問 消防団の役割は重要。全員に連絡しては。
住民生活課長 消防団幹部会議等で各団員への周知徹底を促す。

問 消防団員の確保・育成、機能別消防団員制度の導入については。
副町長 入団資格、団員の処遇・福利厚生など明記し団員募集。後方支援としての消防の責務の認識等、秋田県消防学校教育訓練に基づいた研修を受講。機能別消防団員制度は、令和8年4月1日から導入。

◎機能別消防団は実践に向けて動き始めた。今後の団員の確保、活躍を期待する。

問 消防水利設置状況と水利設置費は。
副町長 平成28年度に夜叉袋上沖谷地内に1基設置、16329千円。小池地区の防火水槽は令和4年度に撤去。現在の設置数は76基。

問 令和8年度予算の

消火栓設置場所は。
住民生活課長 夜叉袋字下昼寝地内。

問 ほかに水利の空白域は確認しているか。
住民生活課長 真坂地区の国道沿い。場所等を確認し今後検討。

◎湖東消防署から、空白域設置要望がある。早期の対応を願う。

問 自主防災の活動状況と防災体制の強化の今後の取組は。
副町長 防災訓練・防災講話等を実施。県は市町村と連携し秋田県防災士養成事業を実施、本町でも5名が認定。防災訓練・防災知識の普及啓発、地域防災力の向上に努める。

問 防災無線が聞こえない地域がある、対策は。
副町長 住宅の遮音性の向上・位置関係・天候や風向き等で聞こえにくくなる。補完手段として町ホームページや町公式ライン・SNS等を活用する。

◎今回の火災は、通報から7分で八郎瀉分署隊、6分遅れで本署隊、さら9分遅れで昭和分署隊が到着。大瀧分署からは20分要する。消防広域化で強化される

部分はあるが、20年内の署所配置の方針が示されている。隣接する建物との間が5m以上ある場合と、一日市地区のように木造住宅密集地域では延焼率かわる。本町や構成市町村の現状を把握し、署所配置については今後も慎重な協議を願う。

クマ対策の進捗状況は

問 ①「緊急銃猟マニユアル」の年度内の作成は。②放任果樹等の伐採予定と「管理強化ゾーン」の設定の進捗状況は。
副町長 ①3月中の完成を目指している。②令和8年度予算に交付金を活用し、真坂・浦大町・三倉鼻地区の伐採希望者の同意確認後順次作業を実施予定。管理強化ゾーンは、真坂・浦大町・三倉鼻地区の山間部を設定し県に報告済み。

◎緊急銃猟にならないよう、早い段階で住み分けを徹底することが必要。不測の事態が発生する前にタイムリーな防災無線の検討もお願いする。

一般質問

財政運用の見直しと 第7次八郎潟町総合計画の実行計画について



のほら しずお
野原 静雄
議員

財政運用の見直しについて

問 本質問は、8年度予算が未提示で6年度決算状況を基にした質問である。議会での実態議論を行うため提案資料はもつと早めに出して欲しい。6年度決算における財政調整基金は2,328百万円。大災害等への備えは、当町の規模では12億5千万円、一般的な保有規模は434百万円で合わせても1,684百万円。当町は大きな余力を持っていない。町の大きな課題が浮き彫りになっている。第7次計画の機会に、財政調整基金の切り崩しや、国・県の施策に呼応した補助金、交付金を活用した大きな前進を強く望む。

副町長 財政調整基金

は、災害など不測の事態に備えるための重要な財源で一定程度の確保が必要。総合計画実行の財源は、一般財源の範囲内及び国や県の補助金等の活用、地方債の活用が基本。現時点では、財政調整基金を積極的に取り崩して事業を実施する考えはない。

問 財政調整基金の八郎潟町における適正額は。

副町長 財政需要として大きな部分は、老朽化がきている公共施設等の大規模な改修で財政需要が今後増えていくため金額は明示できない。

第7次総合計画について

問 実施計画は令和8年度からの3年間、適正な進行管理を行いながら年度ごとに見直す、とされている。その進行状況と見直し計画を議会の理解を得るのか。総合計画に流れている底流は、町民の協力と参加。町の課題

解決に対する町民の意識は高い。この町民の熱い思いを如何にして「まちづくり」に活かしていくか？具体的な実施計画策定の時から町民の声を聴き、尊重し、取り入れた上で具体的な行動協力をお願いしていくことが大事。町民の様々な知識・技術と地域の連帯による「互助」の体制を強化するべき。現場の最前線で地域課題に取り組んでいる団体・個人の方々の連携を密にして、その話しを聞き、活動を支援し、町が進めようとしている総合計画の趣旨も理解を得ながら共に行動する形が必要と考える。町民参加による「まちづくり」は、住民同士の仲間づくりにも大きな役割を果たす。肝心なことは、その協力に対して正当な謝礼を支払うこと。それにより、町民は自分の家計を豊にしながら「まちづくり」に参加するということ、物心両面の満足を得ることになる。これが一人と地域が輝く心豊かな協働の「まち」と考えている。国・県では「地域運営

組織（RMO）」の形成・運営を働きかけている。この地域運営組織の趣旨に基づき、まちづくりに活発に取り組んでいる団体・個人が結集して、3年前に「まちづくり推進の会」が立ち上がった。こうした団体と連携を強化することで、幅広い町民参加の一助となると考えている。第7次総合計画は、町の生き残りをかけた将来への挑戦。町民と行政、それぞれが持ち味を十分に発揮するために互いに尊重し、協力して未来を切り開く、八郎潟町だからできる第7次総合計画を進めていきたい。

副町長 条例で規定されている議決事項は基本構想と基本計画。実施計画については承認事項ではない。各団体の自主的なまちづくりの事業に運営費、助成金を補助しており、補助金には報奨金も含まれている。RMOは、総務省の推奨で、交付金措置の対象としている。今後、RMOとして組織していく場合は、立ち上げに要する時間は必要。

問 3年間の検証と見直しについては、どういう状況で役場の中で検討していくのか、それを報告とか、お知らせとかというものを無しに第7次総合計画が町民の知らない中で修正されていくのか？

総務課長 基本的には、実施計画については各課で今後向こう3年間、計画数値について事業費を含めて検討していく。思うように進まない状況も想定される。そういった時には、その次の向う3年間の実施計画を立てていく。その内容については、議会の承認をいただかないが資料としてお示ししたい。

総合計画の進捗の状況、見直しとかがあるのであれば、広く議会、町民の皆様にお知らせし、より強固な協力・連携をしていただくように進めていかないと、町民不在となってしまう。森川会長が答申として重要な要望事項を掲げておられる。これを真摯に受け止めるべき。

一般質問

「スマート農業の推進に向けて」

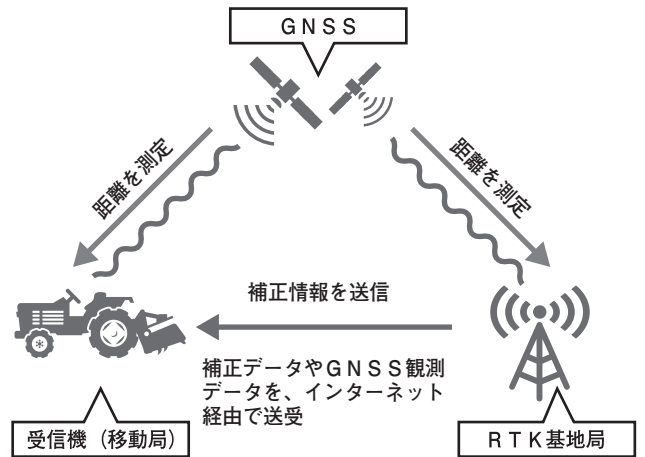


はたけやま かずみつ
嶋山 一充
議員

高齢化による離農や就農人口減少に伴い地域担い手への農地委託が年々増加しております。一方、担い手の経営面積が拡大する中で労働力の確保と作業の効率化が課題となっております。そこで、農業経営の安定確立を図り地域農業の発展と農業所得向上を実現させることを目的として、RTK基地局の設置が必要です。

問 本町においてスマート農業を推進するためRTK基地局の設置及び認定農業者・病害虫防除受益者等の農機具への後付装置を搭載する整備について。

副町長 RTK基地局について、これまで町に要望や相談がないこと、町内の民間事業者がRTK基地局を既に



ネットワークRTK

※RTKとは、「リアルタイムキネマティック」の略で、「相対測位」と呼ばれる測定方法のひとつです。通常のGPSによる測位は、誤差が数メートル生じますがRTK方式は、衛星測位に補正情報を加えることで数センチ単位に位置情報を改善する技術です。

開設していること等を踏まえ、自治体として基地局を整備した際のメリット・デメリットを総合的に判断する必要があります。また、後付装置の整備につきましては高額な導入経費、本町農地の分散状況や大規模経営体も限られてきていることなどから現時点においては、町として導入を推進するのは厳しいと考えております。今後、RTK基地局の設置及び後付装置の搭載整備につきましては、国や県の

補助制度の動向や他自治体の事例を注視しながら、検討を進めて参ります。

ほかに、産業課職員
の体制強化及び変成等
について質問しまし
た。

自転車による交通安全教育

本町では、県道三倉鼻五城目線において危険箇所があります。大

道のガソリンスタンドからコンビニまでの通学路です。新制度導入にあたって、16歳未満を含む世代に自転車の交通安全制度の趣旨や概要を丁寧に周知及び指導等を伝える必要があります。

問 中学生による交通安全教室の現状と自転車の安全利用について今一度、徹底してもらいたい。

教育長 本校（中学校）においては、毎年4月の年度当初に五城目警察署や町交通指導隊の指導の下、全校生徒を対象に実施しております。その内容は、自転車の実技指導と交通安全に関する講話が中心であります。交通事故の写真や専門スタッフによる交通事故の再現ビデオを視聴しながらの講話です。で、大変説得力があります。また、毎年実施しておりますので道路交通法改正による変更点や注意するべき事柄、最近の交通事故の傾向などその時々に対応した内容を教えて頂

いており、大変効果的な学習の場となっております。もちろん、自転車への青切符導入についても、この4月の交通安全教室で取り上げて頂けるものと思っております。こうした活動に加え、学習した内容を徹底する為には、繰り返し指導することが必要です。そこで、学校では長期休業前や連休前には必ず交通安全について、改めて全体指導がなされますし、機会を捉えて個別に指導がなされております。しかし、不注意や軽微な違反だったら構わないだろうという「甘え」によって、つい違反行為をしてしまう生徒が出てくるかもしれません。そういう生徒を見かけた時には是非、地域の皆さまから一言かけて頂くか学校にお知らせ頂き、交通事故の未然防止にご協力願いたいと思っております。今後子どもたちの交通事故ゼロを目指し学校、保護者、地域の協力の下で交通安全教育を推進して参ります。

一 般 質 問

農業政策・緊急医療体制・ 高齢独居者の医療対策等について



さとし 智
むらい 村井
議員

八郎潟土地改良区 へのポンプ場委託 事業について

問 本町は構造上町の排水はほとんど農業関連団体に依存している。また来年度町税収見込みが今年度比200%とされていることは米価上昇によることから大変大きな存在であることから明らかである。これを継続していくためにも農業政策は諸課題を克服していかなければならない。その一歩が正確な現状把握である。そこで、来年度上記ポンプ場委託事業に245万7千円を計上しているが、おそらく

ポンプ場の電気料や人件費が積算基礎と考えるが、実績の金額を明らかにしてほしい。
本町の現状は国の八郎潟干拓事業に機縁している。よって国の地方交付税にはこの件による加算条項があったと聞いているがいかがか。

副町長 八郎潟土地改良区によると、令和4年から7年まで県営工事事業期間中であったため正確な金額は出せない。また人件費についても土地改良区事業と重なっているため切り分けて提示することはできない状況である。しかし電気量の高騰など今後委託料については町と協議していくこととしている。また、この排水事業に対しては国の地方交付税の増額対象になっている。

現在潟上市・大潟村を除く南秋田郡の土地改良区は、合併に向けて協議を進めている。諸要因による経費軽減による農家負担の軽減も目指すところだ。本町の農業産業の維持発展に寄与するべく農業振興に努めていただきたい。

今後の救急体制 について

問 消防組織が改変されるが、その本会議にて町民の救急状況が悪化しないようドクターカー（医師がなるべく早く患者を診察する仕組みで、秋田大学付属病院が運用している）等の普及を県等に働きかけていただきたい。要請したが、現状はいかがか。
副町長 新組織は4月1日から始まる。そこ

高齢独居者の医療 対策等について

で構成自治体と一緒に国県に働きかけをしていくことだと考えております。

問 町内の高齢独居者率について尋ねます。高齢者の事故罹患率は当然高く、また退院後一人で療養することには大きな不安がある。今後長期療養・終末医

療の必要性がますます高まっていく。幸い町内には湖東厚生病院があるが、この機能拡充も求めてはいかがか。
本町においてこの件について検討がなされているか伺う。
副町長 町内の高齢者独居率は28・7%。国の指針も示されており、長期療養・終末医療等改善について近隣町村とも連携を図っていききたい。



一般質問

降雪時における安全安心確保のための取組みについて



おの ちはる 議員
小野 千春

県では住宅の克雪

化、屋根の雪おろし等、除排雪作業の安全対策のほか除雪ボランティア活動の促進、新たな除排雪の担い手の育成を促進するなど積雪期における高齢者等の安全・安心な生活の確保をめざし取組みを行っている。当町においても今年の積雪の課題を糧に次年度に向けた改善していくことが必要。

問 町の県道、町道における課題は。

副町長 車道は未明から早朝、歩道は7時まで終える行程。交差点、間口に雪が残る。町道は町で排雪するが、国道、県道の排

雪は県等とスケジュールを調整する必要がある。昨年までの課題であった羽立住宅の通路確保を今年試験的に対応。

問 県では1月30日道路雪害対策本部、2月3日災害対策本部を設置。当町で雪害対策窓口設置における課題は。

副町長 地域防災計画において70cmを超える降雪、交通、生活に支障時本部が設置される。今年66cmのため窓口設置なし。しかし除排雪の稼働日数が多く町へ業者の紹介依頼等問合せが多数よせられた。日中作業出来るオペレーター確保必要。

問 これまではシルバー人材センター、町内会ボランティア等公助、共助が一つとなり

安全・安心が守られてきた。現状課題は。

副町長 シルバー人材センター15名が間口除雪委託作業に当たり登録者の雪対応を助けている。しかし人数に対する依頼件数が多く障害者手帳の有無、65歳以上の年齢等優先順位を町でつけている。また機械貸出しも行っているが三町内会が今年利用したがマンパ

ワ一の減少により実施出来る町内会に差がある。今回は町民からの問合せには業者紹介で対応、これ以上の場合、屋根の除雪依頼には対応出来ないため課題あり。

問 昨年と比べ今年除雪時の破損等、報告件数は。

副町長 令和6年42件
今年令和7年度15件。



【提言】 昨年の大雨のポンプアップにつづき、今回の大雪の除雪時役場建設水道課職員が実際現場作業に従事。町民の安全・安心対策にあたる。除雪時、破損防止、歩行者の安全確保、車の事故防止の為の誘導作業を職員が連日行う。日中のマンパワー減少を埋めるための対応、処遇改善は必要。また町の独居率上昇の中、病氣療養中の65歳に満たない町民の除雪登録、除雪が継続した場合の高齢者の除雪費用負担の軽減等、様々な課題を課をまたぎ、また町民、議員も共有することが必要。困った一人一人とり残されない町にするため一人一人考え課題共有、現場の負担も共有し柔軟に対応していく必要がある。

各常任委員会議案等の審査

※付託議案及び陳情等の採決結果は4ページ参照

総務産業 常任委員会

委員長

京極幸村 議員

- ◎専決処分 1件
- ◎補正予算 3件
- ◎条例改正 2件
- ◎陳情 1件

【承認第1号】

問 衆議院選挙における経費について、降雪時の選挙となったが、夏場と比べ、費用の積み増しというのはあったものか。

答 ポスター掲示場の除雪費を計上した設置委託料となつて

おり、その分がかかり増しとなっております。

【受理番号1】

・政府は市場に過度に干渉すべきではない。

・秋田県の最低賃金は、1,031円に改定されるが1,500円というのはあまりにも大きい。町の中小企業が1,500円に上げるとなると、経営が行き詰まる。

・経営者側から言えば、国からの補助が入る前に高い賃金を設定されると、参ってしまう

企業もたくさん出てくる。小規模事業者の実態と合っているかどうか慎重に判断しなければならぬ。



教育民生 常任委員会

委員長

伊藤 章 議員

- ◎補正予算 4件
- ◎条例一部改正 3件

【議案第1号】

問 単位老人クラブ活動費補助金の減額補正した理由が、二組織の老人クラブが解散したためによるが、解散の要因は何か。

答 老人クラブの超高齢化が進み、事務的手続き等が困難になった、また、新規加入者がいない現状などの要因である。

問 結婚祝い金と出産祝い金の当初見込みと実績の状況は。

答 新結婚祝い金は10組分、100万円



用要件と任用予定者数は。

答 任用要件については、各市町村で定めることになっており、本町では、消防職員又は消防団員として5年以上の経験を有し退職又は退団した者としており各分団に所属する形になります。また、任用要件について枠を拡大してほしい意見等があれば、今後検討します。今年度の任用については、3月末で退職又は退団する方に声をかけたかと思っておりますが現時点は未定です。

で計上し、12月までの実績が5組です。出産祝い金は15人分を計上し1月15日時点で支出済みが6件、この後の請求予定が2件です。

【議案第10号】

問 消防団員の減少対策として、国で進めた制度で「機能力消防団員」を八年度から設置するが、任

【要望】 超高齢化が進行し、今後とも老人クラブの解散が想定されます。高齢者が集いやすい仕掛けや公的支援等の検討を願う。

予算等特別委員会審議

— 委員長 加藤千代美 議員 —

産業課

問 はちらぼの補助金と管理運営委託を合計した1,400万円を使ってどんな事業を行い、どんな成果が出たのかを教えてください。

答 町づくり活動センターについては平成30年に建設。令和5年ま



予算等特別委員会

で毎年約4,000万円の支出。令和6年には補助金無しの委託料のみで1,300万円。その年度に1階につきし苑が入る。

令和7年委託料⇨センターの管理。補助金⇨事務局の人件費、車のメンテ（野菜の配達）、商店街活性化事

業。令和7年の成果については年度末に実績報告をもらうことになっていたので未確認。委託料は人件費、センターの光熱費、事務機器リース料⇩、200万円。補助金は人件費、はちらぼ寄席、商工会振興会と一緒に七夕企画、1月に改善センターで再発見セミナーを実施。



日本機械工業（株）

問 管理業務委託約1,200万円について、防災センターや歴史資料館も管理委託しているがここまでの額はついていない。この施設を業務委託することによってどんなメリットがあるのか。

答 商店街の活性化を主な目的とする施設に、商店街の活性化等の活動を行いたいNP

O法人が管理運営することで相乗効果もあり、立地的な観点からもNPO法人が商店街の一翼として活動することでのいい関係が構築できると考えている。

問 どうしても他の事業と比べて、ここだけ多く予算をつけている理屈がわからない。バランスが悪く感じる。説得力のある実績や理由が無いNPO法人HachiLABに委託しなきゃいけない理由を教えてください。

答 HachiLABの令和6年度から8年度の指定管理は令和6年3月定例会で議決されており、指定期間中であることから委託するものである。

問 議決した議員が悪いという事か。

答 当時の議員の方々は賛成した。



アスリートメモリアルセンター



駅東側排水路

建設水道課

問 暖気で雪が緩んだ時に道路状況が著しく悪くなるので日中動けるオペレーターの確保をどのように考えているのか。

答 そこは課題だと思います。町もオペレーターも天気予報はチェックしております。

総務課

す。その情報を事前に暖気になる前に動いてもらう指示を出しております。日中、全ての業者を掴めておくことはできません。今年は情報共有してオペレーター同士の応援なども行っていますが、夜からの作業でしたので厳しい状況でありました。

問 70周年記念事業の時期はいつ頃を考えているのですか。

答 式典については、9月30日の午後を予定しております。午前中に、県警音楽隊と小学生との合同演奏会や合唱を計画しております。参加自由と考えて

教育課

おります。多くの町民の方から参加していただきたいと思っております。この他の事業については、随時実施していきます。

問 中羽立公園施設長寿命化計画の対象施設の範囲はどこまでか。

答 アスリートメモリアルセンターを除いた施設が対象であり、弁天球場及びその周辺、公園内の遊歩道、テニスコート、駐車場の舗装等が調査対象となります。遊具等も調査対象です。

健康福祉課

り利用することはできませんが、全体が砂化してきているため、根本的な解決をするためには、全体の土の入替が必要となります。今回の中羽立公園施設長寿命化計画の調査結果と費用を見ながら、改修する予定です。

問 除雪ボランティアについての提案ですが

需要に対して供給が追いついていない状況と恐れられますので、シルバーに限らず学生等他の人材も活用してはいかがでしょうか。



まちづくり活動センター管理運営委託料に対する修正案

提出者 小林 響騎 議員

内容 本事業の補助金の中に、職員の賞与相当額が含まれていることが、担当課の説明及び資料により確認されております。
民間団体への補助金の中に賞与が含まれることについては、税金の支出として妥当か疑問があるため、当該部分について減額修正を提案するものです。

結果▼賛成少数により否決

問 弁天球場の内野土壌が劣化してきているという意見を利用者から聞くが、今回の予算で解決できるか。

答 令和8年度の予算では、土を補充し攪拌する作業を実施します。一時的な処置によ

【活躍の軌跡】 アジア太平洋地域の代表として「リトルリーグ・ソフトボールワールドシリーズ」(開催地：アメリカ・ノースカロライナ/令和7年8月)に臨みました。新田選手は、ピッチャー兼外野手で投打に活躍。**【インタビュー】** 初の外国での試合は、知らない場所過ぎて逆にプレッシャーはなかったです。アメリカでの滞在2週間、脂っぽい食事が多く体調を崩す仲間もいましたが、自分は何とか大丈夫でした。帰国して即行、成田でお寿司を食べました。(笑) ソフトボールを始め



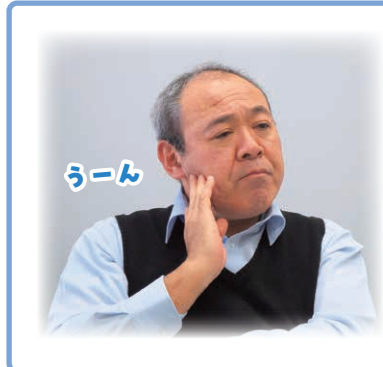
新田 柊 (にった ひいらぎ) さん
八郎潟中学校1年 33区在住

新田さんが所属する全日本チーム(14人)は、昨年(令和7年)アジア太平洋選手権で2連勝して、USAのリトルリーグが主催する「女子ソフトボール世界大会」(9～12歳)に日本代表として出場、投打に大活躍しました。(結果はベスト8)

たのは小学1年生からで、きっかけは部活のお花見会に誘ってもらい、キャッチボールなどをして楽しかったから。練習はいつも楽しいです。毎回、練習後に「今日はここを直したら上手くいった、次はアレを気を付けよう」とメモしたり考えるようにしています。あとは、母に頼んでカラーボールでバッティング練習の手伝いしてもらっています。日本選抜の一員となったときは、知らない子たちとチームを組んで日本代表として戦う覚悟と楽しみが半々でした。選手村ではいろんな国の友達ができ、たくさんのピンバッチを交換して私の宝物になりました。

【お母さん】 部活動は先輩たちの頑張る姿に影響を受けたり、上下関係を学んだり、子供にとつて良いことがたくさんありました。これからも静かに見守りながら応援していきたいと思っています。
【志田校長先生】 生徒たちは、『町を歩いていると地域の人たちに声をかけられる。それが町の温かさで嬉しい』と言っています。地域みんな子どもたちを育てていると感じます。これら子どもたちの頑張りにつながっているのでは…
【杉本先生—一年部学年主任—】 柊さんは常に謙虚で優しい子です。勉強でも、体育でも自分で考えて工夫と集中がすごいと感じています。

インタビュー 話題の人 今、活躍している話題の方や団体にスポットを当ててご紹介します



日景 勇人 (ひかげ はやと) さん
第7次八郎潟町まちづくり計画策定審議会
総務部会副部会長/北都銀行八郎潟支店長

令和6年10月から現職。モットーは凡事徹底。
趣味 駅舎の写真を撮ること
秋田市在住 (現在単身赴任中)
審議会は、4部門(保健福祉・生活環境・産業観光・教育文化)の専門分科と総括する総務部会に分かれて真摯な議論を積み重ねました。

【活躍の軌跡】 第7次総合計画の審議委員として、「よそ者の目」による貴重なご意見で貢献していただきました。
【インタビュー】 八郎潟の最初の印象は大きな町。でも実際に住んでみると「こじんまりしている」という印象で、一人ひとりの距離が近く、いざという時に結束しやすいのが強みだと思います。秋田市の暮らしと比べると、地域のひととの距離感が難しく感じます。

審議委員に委嘱された時は、軽い気持ちで引き受けてしまいました。これはとんでもないことを引き受けてしまったなど、でも、非常に勉強になりましたね。総務部会では計画の趣旨をわかりやすく町民に伝えることを意識していました。
官民協働というのは、とても大切な視点だと思います。高齢化と人口減少のスピードがあまりにも早いし、若い人はまちづくり活動に参加しづらいし、中間層というか、経験のある人がメインとなって官民協働ができるということとは町にとって大きな強みだと思います。駅があるというのも強みですね。秋田市が通勤圏という機能を果たせる環境もあってとつても便利な町だと思います。あと駅までのアクセスがもっと便利であれば良いと思います。

商店街の活性化も重要です。地域経済の活性化は人口減少の歯止めにとって重要な要素だと思います。北都銀行が来年1月合併する荘内銀行は観光にすぐく力を入れていてノウハウも持っているし、食べ物だとか、農産物だとかの売り込む力がすごいので、我々はそれを吸収しながら観光で人を呼び込んで売り込む力を地元を持ち込んで参考になるものがあれば還元していきたいですね。

- ◆議会広報編集委員会**
- 委員長 小柳 鉄秀
 - 副委員長 小野 千春
 - 委員 伊藤 章
 - 委員 松田真寿美
 - 委員 野原 静雄
 - 委員 柳田 裕平

編集後記

旅立ちの春が過ぎ、それぞれの新年度をスタートされたことでしょうか。

さて、昨年の町議選から早1年。新人議員で構成された広報編集委員会は、紙面づくりには毎回苦心。僅かな変化にお気づきでしたか。今年度も皆様に親しまれ、より身近な「議会だより」をお届けできるように努めてまいります。(松田)